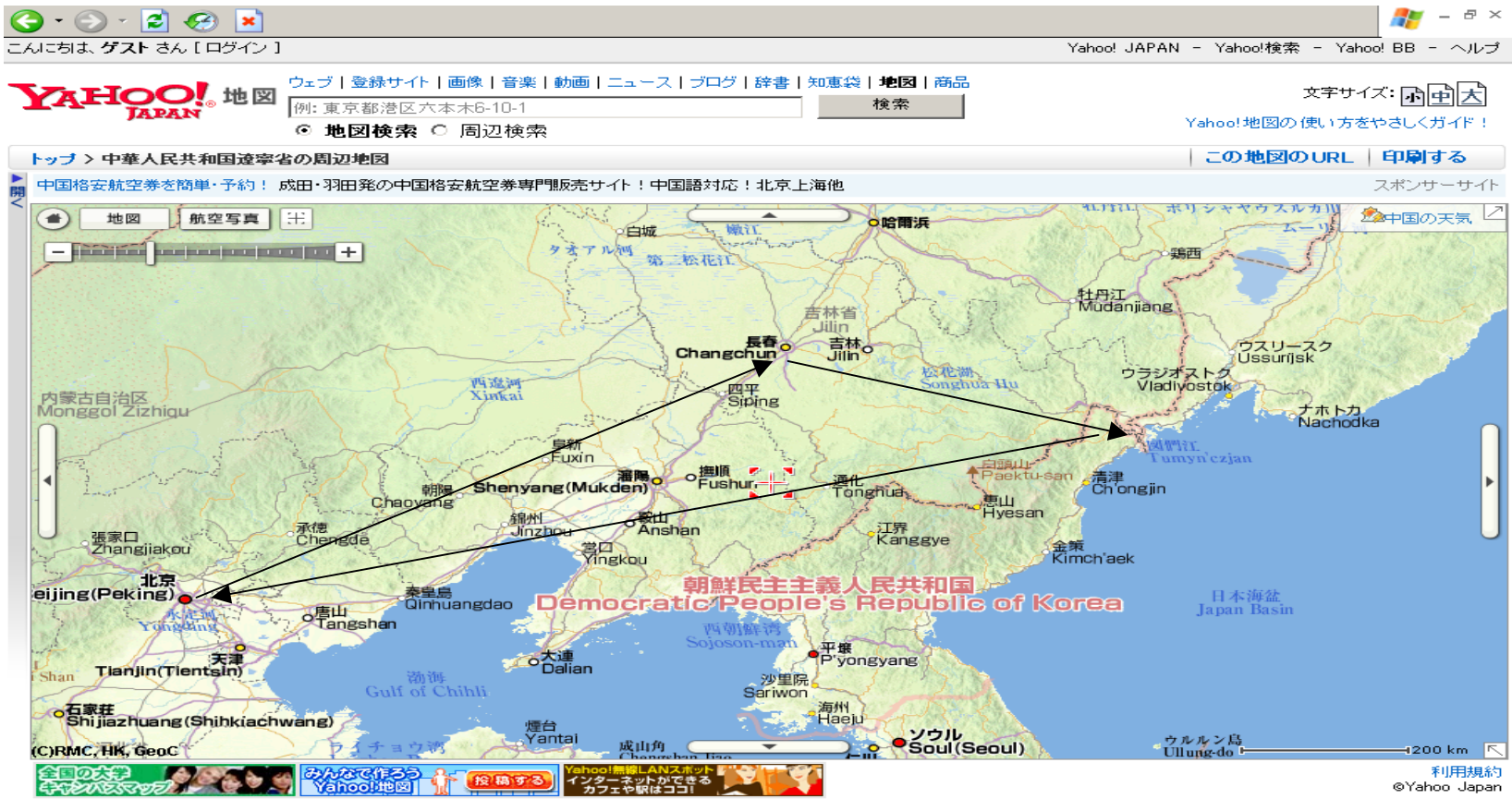
第9回　中･韓･日環境創造型稲作技術国際会議への参加報告

期間：2008年7月10日～7月14日（5日間）

パルシステム生消協・米部会（ふーど米研究会）
JAささかみ　田村　（農）庄内協同ファーム　白澤

NPO生物多様性農業支援センター　岩淵氏、田崎氏
民間稲作研究所　稲葉氏　（ほか現地で集合3名）

行程
成田空港→北京→長春→延吉→北京→成田空港



吉林省　(省都　長春)

- 面積　１８．４７万平方ｷﾛﾒｰﾄﾙ
- 人口　2592万人。　朝鮮、満、蒙古族など
- 気候　温帯大陸季節風気候　東は温暖湿潤
- 中国の主要な食糧産地の一つ
- 森林資源も豊富で、中国木材、漢方薬原料の供給地
- 全省　稲作76万h (全国占13%)　作付安定している
- 1畝ﾑｰ (約６．７a)　500kg　総生産高　500万トン

有機水稲の生産現状と展望

（吉林省有機農産物協会理事長）

・中国の中でも有機栽培は先進水準

作付面積10万ムー　全国20%　東北地区30%

有機稲米約3万トン　収量400～450kg

- 規範化・基準化に向かい→生産、加工、販売の産業化への実施　（無公害食品・緑食食品・有機食品）

- 販売→ブランド、同一商標共同販売の実施

政策の援助、科学技術の立案と資金投入の強化

- 会社＋基地＋農家→産業化運営パターン普及
- 有機籾米栽培を個体、粗放方農業→集約型産業化への転換
- 2010年まで有機稲米の5個の標準化生産基地面積1．5倍　2015年１０個の標準化生産基地

7月10日成田→長春

早い出発　狭い機内

シャトル電車

長春空港

高速道路　トウモロコシ畑

11日　長春の会議会場

12日　吉林市東福米業有限会社の見学視察

籾貯蔵

低温保管

緑色米

製品展示室

精米プラント　米缶

請負農家への住宅販売↓

朝鮮族　1住宅＝5万元

漢族

ほ場、関連施設

合鴨圃場　鴨は高く売れる　鳥（カラスなど）が見えない

除草に蟹利用圃場

トラップ→

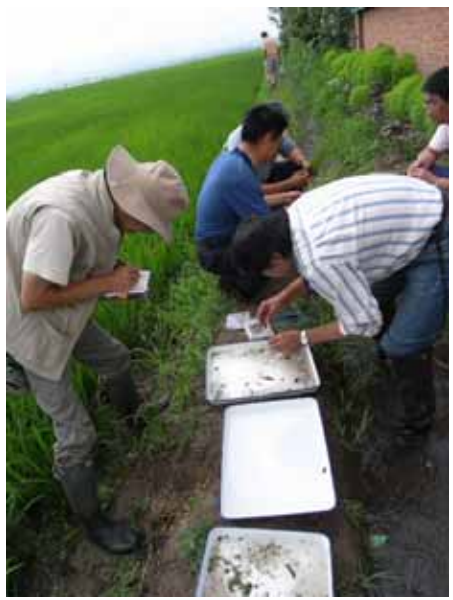
観光農園･レジャー施設の建設

地下水を求め掘ったら温泉が湧き出た

大規模テーマパーク予定

13日　図門市　生き物調査

ツバメ　ｱｷｱｶﾈ成虫　イトトンボヤゴ　イトミミズ　ミジンコなど発見



図門市　国境付近～庄内

第 9 回中・韓・日環境創造型稲作技術国際会議の参加報告
期間：2008 年 7 月 10 日～7 月 14 日（5 日間）

2008 年 7 月 25 日
（農）庄内協同ファーム　白澤吉博

北京経由での長春、延吉、図門（日本海に近いロシア・朝鮮の国境付近）の各地域での農業研修。日本からは 8 名の参加で民間稲作研究所の稲葉、生物支援ｾﾝﾀｰの岩淵、田崎、JA ささかみ生産者の田村の各氏、ほか農業関連の企業人が 3 名。韓国からは 10 名ほどの参加。パル生消協米部会の要請を受けた形での参加だった。

現実の中国官僚；長春の副知事（国家副大臣級）、北京中央品質管理（農水省技術管級）、企業農家、そこに契約される小農家。その貧富格差、生活環境、広大なトウモロコシ畑の面積とともに驚かされて帰ってきた。庄内に帰り、梅雨時期であるが平野一面に広がる緑色の水田、点在する島のような集落、遠くの青い山々、庄内平野の美しい風景に新鮮な感動を覚えた。

日本から田んぼに入る長靴をもっていき、中国での生物多様生有機圃場での生き物調査を期待したが現地では、まだ認識が十分になく、その前準備なども不足していると感じた。我々が田んぼに入り生き物を採取、発見し確認したものの現地の人で一緒に田んぼに入り調査を行う人はいなかった。ダイナミックな企業農家を核とした有機米栽培基地政策と合わせた生態環境保全の認識を高めていくために、生き物調査が活用されることを願い、生き物図鑑手帳 10 冊とすくい網 2 個を手渡した。今後の展開に期待したい。

吉林省での研修視察メモ書き

稲作　76 万 h（全国の 13%）　500 万トン（日本 750 万トン）、有機面積 10 万 h（全国の 20%）中国の先進水準。有機稲約 3 万トン（中国の有機品質基準）国際有機基準は国外の認証団体から取得

凍土雪は積もらないく雨も少ないので乾燥機入らない（天日干し）、田んぼの水は地下水を揚水。

農地は国のもので農家は土地を借り一部を自由に作付けする。企業農家は農家と契約し収穫物を買い販売する。人民公社から企業農家への変化（食品・水稲栽培管理者と栽培請負者の関係）経済を早く達成する為の手段。農家は籾の状態で売り（精米設備が提供されない）低所得層が多く格差大。吉林市近郊農家で月の所得 300 元（日本進出工場責任者 1300 元）、企業農家が提供する住宅 5 万元　レート 100 元＝1600 円

高級層 20%を対象に品質の良い米を販売（精米した米を缶詰で販売）　日本の有機コシヒカリ 2 kg 3000 円で売れるそうだ。

図門市での生き物調査観察

イトトンボのヤゴが田んぼの水中でたくさん泳いでいた。アキアカネの成虫、ツバメの飛来、ユスリカいたがイトミミズ少ない、ミジンコ多く貝類みえない。（調査時間が少なかった。岩淵氏談）鳥（カラス、スズメ、猛禽）が皆無。（人間に食されているのか）

日程・プログラム

月日曜	地名	現地	日程内容
7/10 木	成田発	09:10	成田集合 07:10
	北京着	11:35	所要 3 時間 25 分（時差 1 時間）
	北京発	16:15	
	長春着	17:50	所要 1 時間 35 分
		19:15	ホテル着　バス 50 分
7/11 金	長春	08:30 09:30	第 9 回中・韓・日環境創造型稲作技術国際会議開催 約 250 名の参加
			挨拶　吉林省王守臣副省長　記念写真 報告
			１．吉林省有機水稲の生産現状　吉林省農業委員会主任・吉林省有機農産品協会理事長　任克軍
			２．日本における環境創造型水田農業の技術問題と環境再生 NPO 民間稲作研究所所長　稲葉光圀
			3．　韓国の環境創造型稲作の実態 韓国全南親環境農業人連合会会長　姜大寅
			4．　自然農法とは～その自然観と基本的な考え方～ 自然農法国際研究開発ｾﾝﾀｰ副理事長　原川達雄
			5．　中国有機米の生産技術ｻﾎﾟｰﾄﾁｪﾝの実態及びその推進と展望 中国水稲研究所農業部稲作米及び製品品質監督検証ｾﾝﾀｰ 金連登
		昼食 13:30	
			6．　吉林省の有機農業の発展動向と対策　　王志春（論文のみ）
			7．　北方の有機水稲の優品質、多収栽培技術の研究 吉林省農業科学院水稲研究所副所長、研究員　張三元
			8．　有機食品高品質水稲栽培技術についての探求 吉林市東福米業ｸﾞﾙｰﾌﾟ有限会社水稲研究所所長　劉鋭
			9．　図門市有機農産品生産現状と展望 図門市有機水稲研究所所長（農業普及ｾﾝﾀｰ）　金吉洙
			10．ｱﾙｶﾘ地に井戸水灌漑で魚水稲同時作ｼｽﾃﾑの建設について 白城市洮北区水稲事務室主任、研究員　徐振宝
			11．合鴨水稲同時作技術のダイジュエスト 梅河口市万豊水稲有限会社副社長　金斗浩
		17:00	大会総括・終了

7/12 土	長春発	08:00	見学視察　バスで 2 時間　吉林市郊外
		10:00	吉林市東福米業ｸﾞﾙｰﾌﾟ有限会社の工場区の生産ラインと社会主義新農村の視察
			昼食
		13:00	有機農産品の生産園区（合鴨、蟹、温室、建設中施設）
		16:30	夕食　長春空港へ
	長春発	20:50	延吉へ（所要 50 分）
	延吉着	21:40	図門市へ車で 1 時間
		22:30	図門市ホテル着
7/13 日		09:00	出発　図門市近郊　有機基地の視察（野菜・果物・水田）
			稲生育診断・生き物調査
			昼食
		14:00	中朝露、中露、中朝の国境視察
		17:30	夕食
	延吉発	19:20	北京へ（所要 2 時間 10 分）
	北京着	21:30	北京ホテル着（30 分後）
7/14 月		08:30	ホテル出発
			北京市内（天安門・故宮）
	北京発	13:30	北京発（所要 3 時間 20 分）
	成田着	17:50	成田着